主催者挨拶　伊勢市長　鈴木健一氏

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました伊勢市長の鈴木でございます。本日はひきこもり支援フォーラムの開催にあたりまして、非常にたくさんの方々が県内外からお越しをいただいたことに心から感謝と歓迎を申し上げます。

今日はこのように、こういったひきこもりのことであったり、地域福祉に関心をお寄せいただいて実践いただいている皆様方が、これだけたくさんこの会場にお越しいただいていることを非常に嬉しく感じております。

我々は、さまざまな関係性の中で地域福祉のつながりをしっかりと構築していくことが非常に大切ということを強く感じているところです。特に最近では、ひきこもりというテーマだけではなくて、障がいの関係であったり、貧困の関係であったり、さまざまな重層的な課題を抱えている方も少なくないと感じております。その一つひとつの課題を解決するだけではなくて、そのお一人おひとりに合った課題をどのように発見し、そして課題解決につなげていくか、こういったことを我々は社会福祉協議会の皆さん方、また民生委員の皆さん方、地域の自治会の皆さん方とともに取り組みを進めているところです。

ただし、その課題が見つかったとしても、１日、１週間、１カ月で解決できることはほぼ少なく、中には半年、１年、２年と長期の時間がかかって取り組みを迎えていかなければならない、そのように強く感じているところです。

今日はちょうど小俣町の南本町の方もお越しいただいていますが、最近、非常にびっくりした出来事がありました。高齢者サロンを開設し、ひきこもっている高校生のお子さんが通うことになって、おじいちゃん、おばあちゃんの面倒のお手伝いをしているうちに徐々に自分の気持ちを開いて、人のためになっているという自覚が生まれ、そして学校に戻っていったケースがあると伺いました。

また、私の子どものことなんですが、コロナ禍で夏休みが延期となりまして、９月から夏休みがあと１カ月延長ということになり、iPad、オンラインで授業が始まった。その授業の中で子どもたちの顔を見ていると、見たことのない子どもたちが何人かいました。息子に「この子ら誰やったかなあ」と言うと、実は学校に来られていなかった子どもたちだという話がありました。これまで学校には顔を出さずとも、オンラインの授業だったらしっかりと顔を出した。そんなお話を教育委員会とすると、不登校であったり不登校気味の子どもたちが伊勢市でだいたい 140 人ぐらいみえるのですが、30%の子どもたちがオンラ

インだったら参加するきっかけをつくってこられた、そんなお話もありました。

そういった中で、先ほど申し上げましたとおり、さまざまな課題を解決していくためには、我々がしっかりと手をつないでいく必要があろうかと思っています。しかし、一方では、これまでの人口減少や高齢化の中で、地域の担い手となる自治会の皆さん方や民生委員の方々の担い手不足がちょっと心配な状況になってきております。

当市におきましても、そういった地域の担い手となっていただいている方々の平均年齢はおよそ 70～75 歳ぐらいの方が現役世代ではないかと感じております。これからそれぞれの企業や働く現場で定年の延長化ということが固定化されてまいりますと、これまで 60 歳、65 歳で地域に戻られた方々が、戻られるのが 75 歳、もしかすると 80 歳から地域の担い手みたいな、そんなお話もこれから予見されることがありますと、いまからその点についても手を打っていく必要があるのではないかということを強く感じております。

そういったことを踏まえまして、我々もひきこもりであったり、さまざまな障がい福祉であったり、重層的な支援体制の整備をしていますが、本日のこういったフォーラムを機会に、新たなつながりが生まれ、支援の一助となることを心から願って止みません。

結びになりますが、本日のフォーラムの盛会、そして皆様方の実のあるフォーラムとなることを祈念して挨拶に代えさせていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。